

不二製油株式会社 2025 年度第 2 四半期 決算説明会 主な質疑応答

・日時	2025 年 11 月 12 日（水） 10:00～11:00		
・出席者	代表取締役社長	最高経営責任者 CEO	大森 達司
	取締役 兼 上席執行役員	最高執行責任者 COO	田中 寛之
	取締役 兼 上席執行役員	最高財務責任者 CFO	前田 淳

Q. カカオ価格が下落傾向にあるが、チョコレート用油脂(CBE)やブラマーへの影響は。

A. カカオ価格は下落しているが、高騰前の水準と比較すると価格は依然として高い状況にあり、CBE の価格優位性は継続すると考えている。ブラマーへの影響としては、北米に限らずカカオ価格の下落が最終消費価格に反映されるまでは時間を要するため、2025 年度への影響は限定的と見ているが、来期以降の需要回復を期待している。

Q. 来期のチョコレート用油脂(CBE)の販売数量、単価の考え方は。

A. 販売数量はフルキャパシティに近い状況が続いており、生産におけるボトルネックの解消を進め、需要に応じていく。販売価格は CBE の原材料価格やカカオ価格などに注視しながら交渉を進める。

Q. ブラマーのコンパウンド製品の販売数量が第 2 四半期累計前年同期比で 113%と伸長したが、この背景は。

A. コンパウンド製品の増加は主に CBE コンパウンドの販売の実績化によるもの。2026 年にはキャンベルフォード工場の新ラインの稼働開始により、CBE コンパウンドの本格展開を予定している。

Q. ブラマーの改善が順調に進んでいると理解したが、経営としての変化があったのか。

A. 2024 年度には大きな損失を計上したことから、不二製油グループ全体での最優先課題として取り組みを進めてきた。統一基幹システムの導入、日本やグループ会社からの人材派遣など、施策は着実に進捗している。引き続き最優先課題として全社で改善に向けて取り組んでいく。

Q. 各エリアでのチョコレートの消費動向について、減少傾向と認識しているが今後の見通しは。

A. 全体ではピュアチョコレートからコンパウンドチョコレートへの需要シフトが見られるなかで、コンパウンドチョコレートの比率が高い日本やブラジルでは順調な販売状況。他エリアでは減少傾向にあるが、上期は想定範囲内であり、下期も同傾向を想定している。

Q. 中国の事業の状況を教えてほしい。

A. 景況感低迷の継続により、節約志向が続いている状況であるが、不二製油グループが得意とする機能性を強みとした顧客ニーズに応じる製品群の拡販により、改善を進めていく。

以上